

チェルノブイリ通信

2014年6月20日

No.96

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号

TEL/FAX 092-944-3841 Email jimu@cher9.to

ホームページ <http://www.cher9.to/>

■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328

楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普) 7017104

住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106)(普) 1030416



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



ベラルーシ赤十字ドライバーのセルゲイさん(左)。ご家族との休日のひとコマ

特集:ベラルーシ専門家招聘事業

チェルノブイリ被災地の第一線で活躍する
医師からの現地報告

医療支援の歴史をふり返る(2)

新コーナー 理事のすっぴん部屋

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

事務局からのお知らせ
～イベント紹介とカレンダー販売のご案内～

募金者のお名前とメッセージ

チエルノブイリ被災地の第一線で活躍する医師からの現地報告

2014年3月1日(土)～8日(土)までの期間、ベラルーシ共和国のプレスト州立内分泌診療所よりアルツール・グリゴロビッチ医師、ウラジミール・シヴダ医師の二名が来日されました(※)。各地での活動報告の他、本招聘事業の一環として福岡市で開催した講演会についてレポートします。(写真はモスクワ経由の長旅で日本へ到着したウラジミール医師と再会を果たした山田さん。成田空港にて)



3月2日 郡山市にて講演会

午前中に郡山市の桑野協立病院にて医療専門家向けの講演会(写真)を開催。予定時刻をオーバーするほど活発な質問が投げかけられた。また休憩をはさんで午後からは一般向けの講演会を開催。お子さんと暮らすお母さんなど女性の参加が多く見られ、ヨード剤の投与に関する質問などがあった。

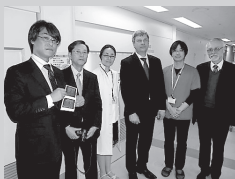


3月3日 獨協医科大学を表敬訪問

新幹線で宇都宮へ向かい、栃木県壬生町の獨協医科大学を訪問。木村先生より福島第一原発事故による汚染マップや、最新のシミュレーションによる放射能拡散の動画を紹介していただく。その後、大学病院を見学。内分泌科にてアルツール医師が行った木村先生の甲状腺エコー検査では、数分で診断をつけ、その技術レベルの高さを印象付けた。



夕刻には宇都宮市内にて稲葉憲之学長らとの交流会の場を設けていただく。木村先生はこれまでウクライナを長期間、たびたび訪問してあるが、今後はベラルーシにも訪問し、医療機関との連携を進めることが必要との認識である。



3月4日 東京へ移動

渋谷区代々木にある(株)カタログハウスさんを訪問。同社では90年代初めからカタログ雑誌『通販生活』での救援カンパ呼びかけ、全国のチェルノブイリ関連団体を集めての連絡会議や講演会等の開催など、長年チェルノブイリ支援を続けており、CMNへも多大なご協力をいただいている。

その後、文京区の日本医科大学へ向かい、清水一雄先生や渡會泰彦先生らと再会。御茶ノ水の「銀座アスター」にて夕食会の場を設けていただく(写真)。アルツール医師は「銀座」と聞いて、銀座に行けるものと思ったようだ。そこで夕食会後に改めて銀座を訪問。念願の銀座に来ることができたアルツール医師、ウラジミール医師は非常に感激した様子だった。



3月5日 グリーンコープを訪問

95年以降、毎年支援カンパ呼びかけなどで多大なご協力をいただいているグリーンコープさんを訪問し、講演会を行った。またグリーンコープさんの取り組みを紹介するミニ番組の取材も合わせて実施された。この模様は、グリーンストーリー「vol.08 チェルノブイリの医療支援」として4月中旬にテレビ放映された。「一緒に問題に取り組むことで、より大きな結果が生まれます。1+1は2より大きいのです」というウラジミール医師のコメントがとても印象的だった。

翌6日の講演会については次ページ参照。



3月7、8日 ベラルーシへ向け、出発

約一週間に亘る視察、講演等を終え帰国。なお今回の訪日では武藤化学(株)さんより、検診で使用するスライドグラス等の消耗品の寄贈があり、アルツール医師らに手渡された。またCMNからもダーマトグラフ(油性の筆記具。医療現場では皮膚に印を付ける際に使われる)を贈った。多忙な毎日が待っていると想像するが、どうか身体に気付けてこれからも被災地の第一線で活躍してほしい。



※今回の招聘は、獨協医科大学国際協力支援センター国際疫学研究室の科学研究費補助金事業「チェルノブイリ被災地調査に基づく中・長期的原発事故後影響の予防医学的研究」(代表者:木村真三准教授)によるものです。

ベラルーシ専門家による来日講演会 in 福岡

チェルノブイリの経験を、フクシマへ

ブレスト州立内分分泌診療所・赤十字移動検診チーム

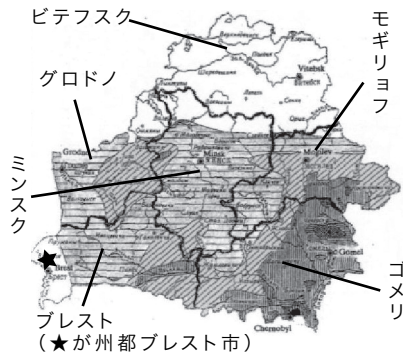
アルツール・グリゴロビッチ医師
ウラジミール・シヴダ医師

◆アルツール医師からの報告

事故後に急増した子どもたちの甲状腺がん

1986年4月26

日未明に起きたチェルノブイリ原発4号炉の爆発事故により、原子炉内にあった各種の放射性物質が放出されました。事故から2週間後の放射性ヨウ素による汚染状況(下図)を見てみると、ベラルーシの国土の約3分の2が汚染されたことがわかります。1990年はじめ、ベラルーシで小児甲状腺がんが多く発見されるようになりまし



被災者を診断した結果から、この事実を確信しました。

1986～1999年までにベラルーシで発見された甲状腺がんの数は、小児期(0～15歳)では673例、青年期(16

73例、青年期(16～18歳)では209例でした。小児期では90年から大幅な増加が見られ、95年にピークを迎えます。一方青年期では96年以降、がんの数が右肩上がりとなつていき

ます。つまりチェルノブイリ原発事故から時間が経つにつれ、ますます小さな子どもたちの間で甲状腺がんが発生し、その子どもたちが成長して年齢が上がり、今度はその年齢層での甲状腺がんが増



会場は福岡学生会館・大会議室
マスコミ関係者を含め約40名の参加があった

えていったことがわかります(グラフ参照)。

現在もがんは減っていない

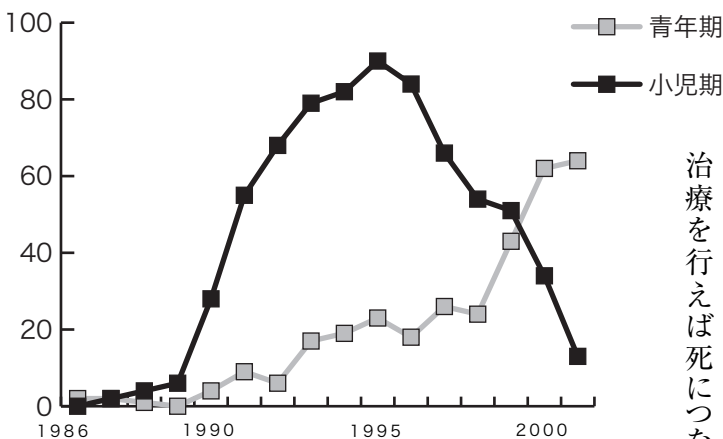
私たちの暮らすブレスト州では、チェルノブイリ原発事故から27年以上経った現在でも甲状腺がんが見つかります。2013年におけるベラルーシの州ごとの甲状腺がん数では、人口対10万人比で見えた場合、患者数の割合はブレスト州が最も高くなっています。年齢別にみると、成人期、つまり

リスグループ(1968～1986年生まれ)の事故当時0～18歳の子どもたち、そして事故当時既に胎児だった人たちを表す)では現在も罹患率が高いという状況です。また小児期における甲

状腺がんも未だもって増えています。その理由はまだよくわかりません。

ブレスト州では、チェルノブイリ原発事故が起きる前の1976～1985年までの10年間に、計61例の甲状腺がんが発見されました。そして事故後～2013年現在までに累計3237例(事故前61例+事故後3176例)の甲状腺がんが発見されました。そのうち9割近くを占めているのは非常に

早期に発見し、適切な治療を行えば死につな



がることはほとんどありません。性別では女性が72.2%、男性が16.3%と、女性の発症率が高いのが特徴です。

乳がんの世界的な増加傾向

事故との因果関係は確認されていませんが、ブレスト州では乳がんも増えていきます。ただヨーロッパではスイスやフランス、オランダ、イギリスのほうが乳がん患者数の割合が高く、ベラルーシはその2分の1程度です。2008年のデータと比較すると、人口10万人のうち何らかのがんを患っている人の数は、フランス(300.4)やアメリカ(300.2)、オランダ(286.8)に比べ、ベラルーシ(229.7)の罹患率は低いですが、ウクライナ(191.9)やロシア(200.5)よりもやや高い数値となっています。

これまで日本の皆さんからの支援のおかげで、甲状腺がんの早期診断、治療の

ための技術を習得することができました。私たちの手で検診ができるようになり、多くの大人や子どもの命を救うことができている。チェルノブイリの悲劇の犠牲になつたベラルーシの人々のために支援を寄せてくださる日本の皆さんには、私からだけでなく、ベラルーシの全ての被災者に代わり、心からの感謝の気持ちを申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

◆ウラジミール医師からの報告

がんを早期に見えれば、充実した人生を送ることができる



穿刺吸引を行うエレナ医師



赤十字より寄贈された検診車

はじめに甲状腺の手術を受けたあの患者さんのお話を紹介します。彼は事故の起きた1986年に生まれました。11年後、私たちの検診で甲状腺がんが見つかり、彼は手術を受けました。最近、偶然にも彼と再会することができました。現在は28歳、義務教育を終え、技術専門学校を卒業し、結婚して子どもにも恵まれました。ごく普通の人と同じような人生を歩んでいます。ただ手術によって首元に大きな傷痕が残ったこと、そして甲状腺を全て取り出したために、一生薬を飲み続けなければいけないこと、この二つが大きな問題として残っています。しかし彼がこの先も充実した人生を送り、孫やひ孫ができるまで余命を達成できることを私は確信しています。



参加者からの質疑に答えるゲスト
(中央は山田医療通訳)

私たちはポーランドと国境を接するベラルーシの西の果て、ブレスト州にある州立内分泌診療所を拠点に活動をしています。1997年、国際赤十字連盟の支援によって、ベラルーシの5つの汚染

地域(ビテフスク州を除く)ミンスク州、モギリョフ州、グロドノ州、ゴメリ州、ブレスト州)に検診車、エコー、血液分析装置が贈られ、移動検診を始めるシステムが整備されました。私たちは医療器材を搭載した検診車に乗って各地域を回り検診を行います(検診の流れについては、6ページの解説図をご参照ください)。

この移動検診の大きな働きは3つあります。まず検診へのアクセスが困難な遠隔地住民に対して検診の機会を提供すること。今なお高い発病率にあるリスクグループの人々に対して検査を行うこと。そして最後に、この移動検診で甲状腺がんの疑いがある場合

国際赤十字連盟による移動検診チームの発足

国際赤十字連盟による移動検診チームの発足

Profile /
アルツール・グリゴロビッチ
(Dr.Arthur Grigovich)

1967年生。プレスト州立
内分泌診療所所長。内分泌
科専門医(甲状腺・糖尿
病)。赤十字移動検診プロ
ジェクトのスタッフとして、
2011年までにチェルノブイリ被災地
であるベラルーシ共和国プレスト州
にて年間一万人超の甲状腺がん検
診を実施してきた。チェルノブイリ医
療支援ネットワーク(CMN)による
甲状腺がん検診プロジェクトには開
始当初から参加し、ベラルーシ国内
でもトップレベルの技術を身に付け
た。2002年、放射線被爆者医療国
際協力推進協議会(HICARE)の
招聘で来日し、広島県内の医療機
関で研修を受ける。



Profile /
ウラジミール・シヴダ
(Dr.Vladimir Sivuda)

1960年生。プレスト州立
内分泌診療所スタッフ。内
科医、超音波診断専門
医。2005年、アルツール
医師の父で、プレスト州立
内分泌診療所・前所長のスタニスラ
フ・グリゴロビッチ氏と共にHICA
REの招聘で来日。長年アルツール
医師とともに赤十字移動検診団の
団長として、来日研修で得た知識を
活かしながら精力的に活動を展開し
てきた。CMNによるプレスト州での
甲状腺がん検診プロジェクト参加当
初から変わらぬ白ヒゲがトレード
マーク。



年間一万人以上の住民を検診

には、現場で穿刺^{せんし}吸引を行い、甲
状腺の細胞を採り診断に生かす
ことです。この穿刺吸引を最も
早く実施したのはプレストのチー
ムです。日本の医療専門家からこ
の技術を習得したことで、甲状腺
がんの早期発見に大きな功績を
もたらしました。

私たちは一ヶ月のうち3週間は
移動検診を行い、残りの1週間は
診療所で患者さんを診ています。
そのサイクルを一年中くり返して
います。2004～2013年ま
での期間では、14万人超の住民の
検診を行いました。そのうち約

55%は初めて検診に来た人でし
た。性別では女性が全体の約
79%(うち初診は51%)、男
性が約21%(うち初診は
72%)となっており、男性の
ほうが検診に來ないことが
わかります。この期間、悪
性、良性を含め計65849
例の甲状腺疾患が見つかり
ました。このうち32699例
は甲状腺結節性病変(甲状腺の
組織内にしこりができる病気。
なお甲状腺腫大(ヨード不足が原
因で甲状腺が腫れる病気)も含
む)、23126例は甲状腺炎(甲
状腺に炎症が起る病気)でし
た。

これまでのプレスト州での移動
検診では、計62
6例の甲状腺
がんを発見し
ました。その
うち小児期
における甲
状腺がんは
18例、青年期
では39例、そし
て先述のリスク
グループでは247例と
いう結果でした。またリスク
グループとともに、1946～196
7年生まれ事故当時19～40歳
の成人期の人たちでも甲状腺が
んが多く見られるため、これら
の年齢層についてもフォローグル
ープとして特に注意して検診を行
った。



日本の皆さんへ恩返しを

また移動検診とともに、診療
所での医療コンサルティングも大
事な仕事のひとつです。ここでは
汚染地域の住民に対し、規則正
しい生活や様々な相談事について
話し合います。

プレストの移動検診チームは2
001年から穿刺吸引を導入し、
これまでに5700例の穿刺吸引
をしました。この作業に費やす時
間は約5分。できるだけ短い間
に、患者さんが恐れる暇がないく
らいすばやく行うように心がけて
います。以前私たちの検診ではエ
コーもなく触診のみの検査をして
いました。ところが日本からの支
援によってこの穿刺吸引技術を
習得し、また検診に必要なエ
コー、周辺機器などを贈っていた
だけ、現場で確かな診察を行え
るようになりました。また病理の
面でも高性能な顕微鏡、染色の
ための試薬や消耗品などの支援
を受け、早期の診断が可能とな
りました。

日本を襲った3・11以降、福島や日本の専門家の方々が私たちの診療所へ視察に来られるようになりました(5ページ写真)。これまでの日本からの支援で習得した技術や経験が、今後日本で被災された方々のために役立てば何よりです。長きに亘ってのあたたかいご

甲状腺がん検診は、このような手順で行われています

「触診」甲状腺を含む頸部^{けいぶ}を手で触って状態を確かめます



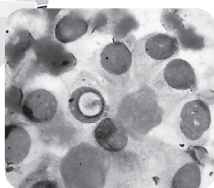
【エコー検査】超音波診断装置を使って甲状腺をチェックします



「穿刺吸引」がんの疑いが見つかった場合に、注射器のような器具で甲状腺の細胞を採取します



【細胞診断】採取した甲状腺の細胞を顕微鏡で調べ、診断に役立ちます



Column



今回の招聘事業では、全行程に同行されたロシア語医療通訳の山田英雄さんのご活躍も特筆すべきものでした。談話の二コマをご紹介します。

今回アルツール医師、ウラ

木村先生(左)へエコー画像について説明するアルツール医師(手前)とウラジミール医師(奥)



ジミール医師と獨協医科大学の木村先生とが初めて対面されました。3・11後の木村先生のエピソード(事故発生直後に当時の職場に辞表を提出して福島へ向かわれたこと、浪江町赤宇木地区の集会所にいた住民に

対して避難を説得するために、防護服を脱いで住民の信頼を得ようとされたことなど)をアルツール医師らへ説明すると、「彼は日本の英雄だ、勲章をもらう価値がある」と称賛していました。また木村先生の甲状腺エコー検査では、亜急性の甲状腺炎(=病態として活動性の炎症があり、将来、慢性甲状腺炎(=橋本病)、甲状腺機能低下症になる恐れがある)と瞬時に診断していました。これは甲状腺の炎症のためにリンパ球がたまって結節(しこり)のように見えることから偽結節と呼ばれていました。1997〜2001年までのブレスト州ストーリン地区における検診時代、彼らはこの偽結節と結節の区別がつけられず、かなり熱心にトレーニングをしていました。今回の検査ではそれを即診断できたので、彼らの診断技術が上がったことがよく実感できました。

また木村先生と山田さんは、今年6月に専門家の方々とともにベラルーシを訪問される予定です。7月20日(日)に九州大学西新プラザで開催する木村先生の講演会では、福島だけでなく、ウクライナやベラルーシでの活動についてもご報告いただく予定です。詳しくは11ページのお知らせをご覧ください。

社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」受賞記念 医療支援の歴史をふり返る

1997年に本格的にスタートしたベラルーシでの医療支援活動の歴史をふり返ります。第一回での導入部につき、今回は2002年以降、活動拠点をプレスト市へ移してからの支援の広がりについてご紹介します。

第二回…点から線への広がり

―日本からの支援によって培われた技術が次世代へ伝わる―



2002年よりプレスト州立内分分泌診療所へ拠点を移す。人材育成とともに、日本の皆さんからの支援によってエコーや顕微鏡などを寄贈しハード面の整備も行った。この共同作業で技術を身に付けた現地の医師から、次世代を担う若手医師らへと、その経験が伝承されている。
(左写真は2002年のプレスト第2回検診)

1997年～2001年までの5年間、プレスト州ストーリーリン地区での甲状腺がん検診を実施した後、日本と現地の医師たちの共同チームによる検診プロジェクトは、2002年より州都プレスト市にあるプレスト州立内分分泌診療所へと、その拠点を移した。同診療所はプレスト州内のすべての内分泌系疾患の情報が集まる場所である。現在も協力関係にあるアルツール医師、ウラジミール医師(※2～6頁参照)らは、診療所勤務の傍ら休診日などを利用して、国際赤十字が汚染地域で行っている移動検診プロジェクト(MDL)のメンバーとしても活躍していた。MDLはプレスト州内各地を巡回し、住民の診察を行って

る。その数は年間一万人以上である。ここでも日本からの支援によって培われた技術が生かされている。以前このMDLでは問診、視診、触診、エコー検査までしか実施し

ていなかった。そのため、仮にがんの疑いがあってもその場で精査することができない。住民は設備の整った都市部の基幹病院まで再検査に行かなければならなかった。しかし日本の専門家から穿刺吸引技術(※6ページ参照)を学び、その場で仮診断を下すことが可能となった。これによって「病気であるかもしれない」と不安を抱える住民を安心させ、また基幹病院へ出向く必要がなくなり、経済的な負担も軽減された。

またCMNのベラルーシ訪問時に行われる現地との合同検診では、プレストのMDLによる「二次検査」でがんの疑いがあるとされた住民に対しての「二次検査」を行う。これによってより正確な診断を行うことができる。50名前後の受診者のうち、がんまたはがんの疑いは2～3例という高い発見率を残すことができるのは、こうした理由からである。

その後アルツール医師らは、日本の専門家から学んだ技術と経験を他の地域で活動するMDLメンバーへと伝承していく。また次世代の担い手育成として、州立内分分泌診療所の若手スタッフにも積極的に技術指導を行ってきた。ゼロからスタートした甲状腺がん検診プロジェクトは現地パートナーとの二人三脚によって少しずつ、しかし確実に点から線へ、線から面へと広がっていった。

(次回へつづく)



2003年の第3回検診での問診。受診者は10代の若者も多かった(上) 2005年、広島市内の医療機関で研修を受けるウラジミール医師(下)

Showing CMN staff's natural self

理事のすっぴん部屋



皆さまからの活動支援カンパを被災者支援へとつなげるため、日々の運営を担っている私たちスタッフのこともっと身近に感じていただきたい！という想いで企画したコーナーです。

第一回 和田幸策×川原秀之

えっ、ここで総会やってんのか？って驚きましたね

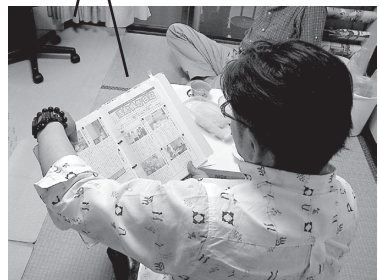
初回はこの会報の編集メンバーでもある和田さん、川原さんです。お互いに参加のきっかけなどを教えてください。

和田 僕が活動に関わったころは、ちょうどチエルノブイリから25年の時やったんですよ。それでテレビとかで特集が組まれてて。「まだ終わってないんだな。そう簡単には終わるはずがないな」と、自分の中に何か引っ搔かっとなるものがあってたんでしょうね。もともとボランティアとかに興味があったし、ネットで検索したらFUNN(NGO福岡ネットワーク)のサイトが出てきたんです。

川原 へえ、FUNN経由なんだ。
和田 そう。で、サイトを色々見たら「おお、地雷撤去。あ、チエルノブイリも。お、今度総会があるんやね。事務所は水巻か」って。家からわりと近いし、行ってみようかなってのがはじまりですね。だからきっかけは、ぶつちやけ家が近かったから。結局今は(事務所が古賀市に移転して)遠くなったけど(笑)。
川原 え、いきなり総会行ったと？
和田 そう、場所は当時事務所があったウインドファーム。僕、勝手に株主総会みたいなイメージ持ってたんですけどね、見事に想像と違

ましたよ。車で行ったんですけど、あやうく通り過ぎそうになりましたもんね。看板とか何もなし、「え、マジここ？」みたいな(笑)。それで念のため「着きました」って電話したら、当時の事務局長の吉本さんがサンダル履いて出てきてくれて。結構人が来てるんだろなって思ってたんですよ。でもスタッフを除いたら僕一人だけだから「うそやろ？」って思いましたもんね。それから色々、会報の発送作業とかイベントのボランティアとかに参加するようになりましたね。

川原 じゃあ常連のボランティアさんやったんやね。その後すぐに理事になったと？
和田 いや、確か2007年の夏くらいに「和田さん、理事どうですか」って言われたんですよ。それで2008年度から理事になりましたね。
川原 俺、参加した経緯とかよう覚えてないっちゃんね(笑)。
和田 (笑)。確か、最初は監事でしたよね？
川原 あ、そうそう。当時CMNの理事だった津島さんから話があったんよ。それで監事をする事になつて総会に行ったのが最初かな？
川原 さんは2008年度に監事になって、翌年から理事になってますね。



会報のバックナンバーを懐かしげに読む和田

川原 僕、ちょうど他の団体の会計係を辞めた時だったんですよ。だからCMNで新たに行動できる場を与えてもらって感謝してます。それで古賀の事務所にたまに経理の書類を見に行きよったんよ。で、事務局から「意見を出してもなかなか返事が返ってこない」とかいう話があって、「じゃあ俺が真ん中に立とうかね」って感じになって。

うまく組織を運営するには 適材適所の役割分担が必要

川原 僕、他のNPOにもいくつかわつとるんやけど、CMNに限らず、こういう活動っていうのはそれぞれに役割分担があるって思うんですよ。宣伝が上手い人とか、理論的に動ける人、それをサポートする人がいて、ある程度お金の流れがちゃんとわかっている人がいて、とかね。そうやって上手く組織がまわるんやないんかなって思う。まあ船頭タイプはどこでも多いんやけど(笑)。

和田 CMNも前に事業ごとに担当の理事を決めましたよね。僕はイベント担当で、川原さんは事務局担当で事務局長を兼任されてて。



PROFILE

和田幸策(わだこうさく) / 右

5月1日生まれのおうし座。

趣味はマンガと酒。そして歴史をこよなく愛するサラリーマン。「これはロクな趣味やないね。あ、でも特技はちょっとグレードアップして、剣道と弓道ね。今はやってないけど(笑)」とは本人談

川原秀之(かわはらひでゆき) / 左

1月19日生まれのやぎ座。

福岡で通信制高校を運営中。背が高く、声も大きいので会議の司会をよく務めています。趣味は散歩と読書。「特技はたいしてないね。まあ人をおちよくることくらいかな(笑)」とは本人談

でも新しいメンバーも加わったからもう一度見直してみてもいいかもしれませぬね。

川原 うん。あと上手く組織をまわしていくには温故知新で、古いもので良いものは残すけど、新しい考え方も入れていかんとね。

和田 うん。その通りですね。古い、新しいのバランスが大事ですね。

川原 僕、NPOに関わっている人たちって社会を良くしようとして活動してるんだから、すつこく人を大事にするのかなって思ってたけど、必ずしもそうではないよね。NPOで働いている人たちは「この少ない給料のなかで、私は社会に貢献して



2009年秋、初めてのベラルーシ訪問に挑む川原。福祉工房「のぞみ21」経営者ナターシャさんへの取材を行う

る!」って燃えさせるような発言ってあんまりないもんね。羨えさせるとはガンガン言うけどさ(笑)。

和田 たぶん組織の中の一員として動くから、かえってそういうふうに見えにくいのかもかもしれませぬね。

新たな展開を目指すには、 若手からも忌憚のない意見を

川原 僕、CMNに関わるようになって幸せやったのは、やっぱりベラルーシに行けたってこと。現場を見れたっていうのはありがたいね。

和田 何回行ったんですか?

川原 5回。2009年から連続で。良いところも悪いところも見てきたと思うよ、ホント。まだ行ってない和田さんとか小川さんとかにもぜひ行ってほしいけど、会社勤めで一週間海外とか無理やもんねえ。

和田 無理ですね(笑)。

川原 俺みたいな自由業か、リタイヤした人じゃない限りは、会社辞める覚悟で行かんと無理よね。けど色んな人が色んな視点でみるこどが大事だと思う。僕は現地へ行くことに意味があると思うから、予算がどんどん減っていくと、どういう形であれ行くことが一番だと思ってる。それと、これまでに培った技術をどう東日本支援に役立てるかってことを、会員さんは期待されてるんじゃないかなって思う。これから規模はどんどん縮小していくと思うけど、それでも毎年充実した派遣ができるように、会議でも色んな人が色んな意見を言ってみようね。CMNの活動をもっともといいいものにしていかないと、うし、その力のひとつが和田さんであり、小川さんであり、平川さん。若手から斬新なアイデアを出してもらって、違う一面を出せるといい。だから和田さんも自分の意見をガンガン言ってください、今度から。

和田 はい、そつすね(笑)

川原 僕、今度はぜひプライベートで気楽にベラルーシへ行きたいねえ。

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆3月13日 クラウドファンディングセミナー



受講中です

NPO法人アカツキ主催のセミナーに参加。クラウドファンディング(CF)とは不特定多数の人から資金を集めることで、日本ではなんと奈良時代までその歴史が遡るとのこと。セミナーでは実例をもとに、CFを始める前、実施中、終了後の各段階での取り組みやポイントなどを学びました。

◆3月15日 つながりひろば交流会



中間支援に関する講演

古賀市の市民活動サポートセンター(つながりひろば)に登録している団体、個人が集う交流会に参加しました。古賀市では芸術やスポーツ、福祉など多岐に亘る分野で色々な団体さんが活躍されています。CMNも地元の方々に知っていただけるように活動を展開していきたいです。

◆5月3日 第4回北九州九条まつり



バルーンアートの実演

会員さんからの紹介で、毎年ブースを出展させてもらっています。屋外での開催ですが、今年も良い天気!グッズ販売のほか、憲法クイズや大声大会などの企画もあり、毎回子どもから大人まで楽しく学べる催しです。今後も引き続き参加していきたいです!

◆5月24日 運営会議を開催



協議中です

毎月一回、スタッフが集まり、今後の活動について話し合っています。時おり脱線しつつも、支援者の皆さんの想いを現地へ届け、効果的な支援活動を展開すべく、知恵を絞って頑張っています。運営に対するご意見、ご質問などがあれば、どしどしお寄せください。

◆5月25日 FUNN総会



審議中です

正会員団体として加盟している(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)の年次総会に参加。長らく地方のネットワークNGOとして地道に活動を続けているFUNN関係者の皆さん、今年度もともに頑張っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひします。

★ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ★

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか?

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍など)を合計5千円以上ご注文いただいた先着20名の方に新発売の「有機栽培カフェインレスドリップバッグコーヒー」を1袋プレゼントします!

期間 2014年 6月15日(日)～7月15日(火)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



○原産地:メキシコ
○内容量:10g/1カップ分

カップにのせてお湯を注げば飲める、手軽なタイプ♪

ご予約
受付中。

木村真三先生講演会



チェルノブイリ、フクシマの被災地で、住民に寄り添いながら放射線量の測定や汚染マップの作成、健康調査などに取り組んでいらっしゃる木村真三先生(獨協医科大学准教授・国際疫学研究室福島分室室長)を今年も福岡へお招きし、講演会を開催します。被災地の現状や生の声を知って、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。ご予約をお待ちしています!

日 時: 2014年 7月20日(日) 14時~17時 (13:30開場)

会 場: 九州大学西新プラザ 大会議室 (福岡市早良区西新2-16-23)
地下鉄姪浜線「西新」駅より徒歩約10分

参加費: 予約500円 / 当日1000円 (※定員200名・先着順)

前売り券も
あります!

◇ご予約、お問い合わせはCMN事務局まで… TEL 092-944-3841 メール jim@cher9.to

◇予約サイト「こくちーず」からも申込OKです… <http://kokucheese.com/event/index/179478/>

本講演会は、公益財団法人よかトピア記念国際財団より「国際交流活動助成金」を受けて実施します。

開催日
決定!

ヘアサロン・スネガピーク2014

プロの美容師さんにお手ごろ料金で髪を切ってもらって、オシャレに変身♪ しかも社会貢献もできるという一石二鳥のヘアサロンにあなたも来てみませんか?

福岡市のヘアサロン、美容専門学校などと協力してCMNが企画運営する年に一度きりのチャリティ美容室を今年も開催します。収益金はチェルノブイリ原発事故および東日本大震災で被害を受けた方への支援にあてられます。

日 時: 2014年 10月13日(月祝) 10時~15時 (14:30受付終了)

会 場: 福岡 大村美容ファッション専門学校 オムニス・スタジオ
(福岡市中央区大名2-1-35 Tryent山崎ビル2F)

料 金: 1500円 (シャンプー、カット、ブロー+オーガニックコーヒーをプレゼント)



新発売
ご案内。

2015年度版カレンダーを販売します!

CMNの新規事業としてカレンダーの販売をスタートします。現在、2015年版カレンダーを製作中です。福岡ご出身の写真家・映画監督である本橋成一さんの作品『ナージャの村』(※)を題材にしたカレンダーに仕上がる予定です。

カレンダー販売の収益は、チェルノブイリおよび3・11震災被災者への支援活動費として使わせていただきます。たくさんの方に手にとっていただいて、月ごとの風景を眺めながら被災地へと想いを馳せていただければと思います。詳細は次号の会報にてご紹介しますのでどうぞお楽しみに!

(※)チェルノブイリ原発事故によって高濃度汚染地域となったベラルーシ共和国のドウチチ村に暮らす人々の営みを追ったドキュメンタリー映画。1997年製作。本橋氏の初監督作品です。

価 格: 1000円(税込・送料別)

規 格: A4中綴じサイズの壁掛けタイプ



たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

浅井由美子 浅原望樹 上岡澄子 植田清子 大池葉子 大塚厚 金口只律子 辛島恵里 川崎巳代治 幸子 川原秀之 神崎幸子 桑田陽子 桑原千鶴子 こもれびガーデン株式会社 定村洋子 サトウ矯正歯科クリニック 里見照子 渋谷けい子 高木裕子 高田正世 高橋武三 遠山祥子 中川洋慶 西村元子 覚正寺 日本医科大学学長 田尻孝 林由美子 深堀三子子 前田育子 前田祐子 牧洋子 丸山さより 宮田京子 めぐみ保育園 森悠子 矢野和代 四元洋子 和田政子

〔都道府県別〕

〔北海道〕 2名 〔福島県〕 1名 〔東京都〕 7名
 〔神奈川県〕 2名 〔埼玉県〕 4名 〔長野県〕 1名
 〔山梨県〕 1名 〔静岡県〕 2名 〔愛知県〕 1名
 〔三重県〕 2名 〔兵庫県〕 2名 〔広島県〕 6名
 〔山口県〕 7名 〔愛媛県〕 1名 〔福岡県〕 52名
 〔佐賀県〕 6名 〔長崎県〕 3名 〔熊本県〕 10名
 〔大分県〕 5名 〔宮崎県〕 2名 〔鹿児島県〕 5名
 〔沖縄県〕 1名

計123名(匿名含む)

●マンスリーサポーターの皆さん

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 上田英子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大塚卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大塚満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子

★グリーンコープ組合員のべ684名の方々より、2,254,000円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。ご協力者さまのお名前は次号にて紹介させていただきます。

合計	664,744円
活動支援金	546,244円
のぞみ21カンパ	25,500円
雪だるま3号カンパ	21,500円
東日本支援カンパ	71,500円

櫻井美喜子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤二江 佐藤進一 藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 中村洋子 榎崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松本幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉丸隆子 渡邊久美子 渡邊真志子 計126名(匿名含む)

(2014年2月1日～4月30日までに募金をして下さった方、ならびにのぞみ21雑貨支援コーヒー・紅茶等の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

編集後記

アクの強い面子が揃うCMN理事の手柄を知ってもらおうと思い、新コーナーをスタートしました。今後、数回にわたって全スタッフの素顔をご紹介できればと思いますので、どうぞお楽しみに。(み)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●初孫が生まれました。幸のおすそわけです。●コーヒーのいい香りです。幸せを感じます。●被災された方々の苦しみが少しでも軽減されますように。●長い支援活動いつもお疲れ様です。少しですが、役立てて下さい。被災地の方の幸をお祈りしております。●原発廃止と一緒にがんばりましょう。●報道でチェルノブイリの医師2人が来日、福島の子どもたちを見ていただけるという記事を読みました。ありがたいことです。被曝隠しをあげてください。●活動お疲れ様です。引き続き支援させて頂きます。●子どもは「未来」です。離れていても皆さんの幸せを祈っています。●続けること、目を向けること、穏やかな日々のおとずれを願います。●すこしでごめんなさい。あきらめないでください。御自活！●祈っています。少しでもごめんなさい。くれぐれもご自愛ください。かかわっていらっしゃる方々、ありがとうございます。●3・11震災に想いをよせ、日赤と同額です。チェルノブイリは武市Dr.がよく行ってってくれています。ありがとうございます！●少額ですが、使ってください。●活動有難うございます。いつも少額ですが、あらゆる命のために！娘は自己満足という。それだけではないよ!!●どうぞみなさんお元気で。



おいしく、たのしく、ベテランシ料理を作ろう！

ロシア、ペラルーシの家庭料理作りをチャレンジしてみませんか？

今年11月に古賀市での料理教室を計画中です。場所は古賀市中央公民館研修棟の106調理室を予定しています。参加費、定員は変更の可能性がありますが。詳細は追ってご案内しますのでお楽しみに。(写真はイメージです)

- 参加費：1200円(講師料、材料代)
- 定員：20名(先着順)